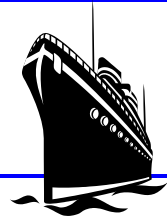


MSI Marine News

トピックス



●海上保険の総合情報サイト **MARINEN@vi** もぜひ、ご覧ください。(http://www.ms-ins.com/marine_navi/)

青果物専用コンテナ「CA コンテナ」導入による食品輸出の展望

はじめに

政府は、農林水産物・食品の年間輸出額を2012年の4,500億円から2020年に1兆円まで増やす目標を掲げていましたが、今般、TPPによる関税撤廃効果を見込み、達成時期を2019年に1年前倒しすることを表明しました。

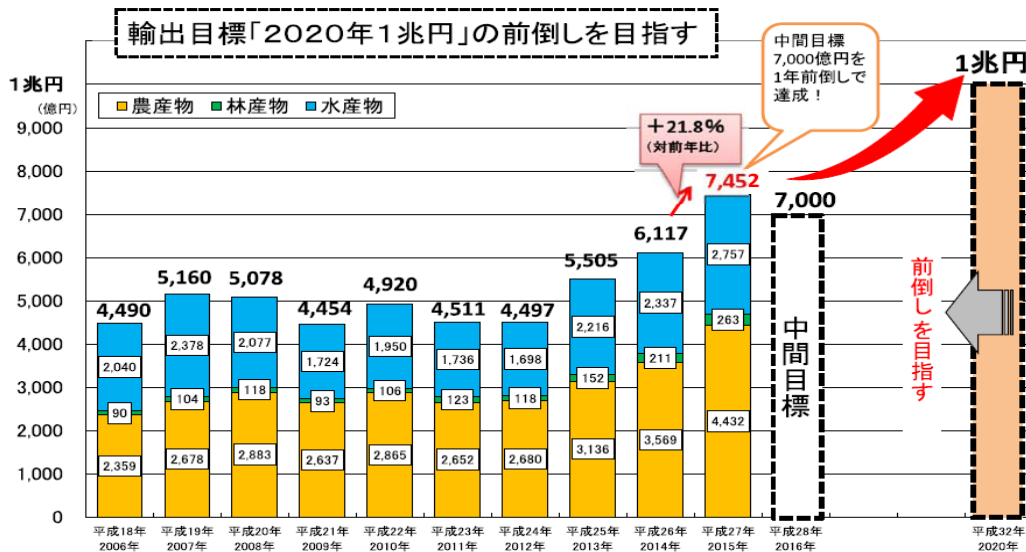
今回は、特に青果物の輸出目標達成への寄与が期待されている「CA コンテナ」をご紹介しますとともに、輸出拡大に向けた政府による支援策をご紹介します。

1. 農林水産物・食品輸出倍増計画について

安倍政権は、2013年に閣議決定した「日本再興戦略」において農林水産業の成長産業化を重点の一つと位置づけ、2020年までに農林水産物・食品の輸出額を1兆円とする目標を掲げて取組んできました。その結果、2015年の輸出額は7,452億円と3年連続で過去最高を更新し、2016年の中間目標額7,000億円を上回ったことが、今般の前倒し達成の表明につながったと思われます。

中でも青果物の輸出額は、2015年の中間目標額170億円を大きく上回る235億円に達し、最終目標額250億円到達まであと一步のところまできています。

農林水産物・食品の輸出額の推移



青果物の輸出額の内訳

(単位: 億円)

品目名	2014年	2015年	増減率(%)
青果物	163	235	44.2
リンゴ	86.4	133.9	55.0
ながいも	24.2	26.3	8.8
ブドウ	9.1	15.4	69.3
桃	8.3	10.9	31.2
イチゴ	4.4	8.5	94.9
梨	5.4	7.2	33.9
温州みかん	7.2	6.1	▲ 15.9
甘藷	3.8	5.9	56.4
柿	2.7	3.0	10.2
メロン	1.6	2.8	77.3
キャベツ	0.7	1.1	65.4
粟	4.2	1.1	▲ 74.6
その他青果物	5.0	12.8	154.3

出典：農林水産省 HP

2. CA コンテナ

傷みやすい青果物の輸出には、これまで輸送時間の短い航空便が主に利用されていましたが、販売価格に占める輸送コストの割合が高く、一部の富裕層向けの高級品扱いとなっていました。

航空便輸送よりも低コストの船便による青果物輸送では冷蔵コンテナが利用されますが、青果物の呼吸作用による糖度の低下、及び、自ら発生するエチレンガスにより輸送中に成熟が促進されることから、これまでは輸送可能な青果物が限られてきました。

この問題を解決すると言われているのが CA (Controlled Atmosphere/環境調整) コンテナで、温度調節機能に加え、コンテナ内の酸素濃度を低く保つ機能を持っています。青果物は糖をエネルギーとして呼吸をしていますが、酸素濃度が低いと呼吸が抑えられて糖や有機酸の消費が少なくなります。呼吸作用を抑制することで、青果物の成熟を促進させるエチレンガスの発生が抑えられるため、鮮度を保ったままの輸送が可能となります(注)。

CA 技術自体は 1970 年代よりリンゴの貯蔵に用いられる陸上倉庫で使用されており、1990 年代にはコンテナへの応用取組がなされていました。その後も研究が進み、特に 2 年ほど前から輸送技術として注目されはじめ、今般新たな CA コンテナが開発されました。CA コンテナを利用した船便輸送は、航空便輸送に比べてコストを約 10 分の 1 程度にまで抑えることも可能で、輸出先での販売価格引下げによる輸出数量および金額の拡大が見込まれます。

注：CA コンテナの中には、エチレンガスを積極的に分解する機能をもつものもあるようです。

3. 政府による支援策

農林水産省の青果物輸出促進に向けた支援には、以下のようなものがあります。

(1) CA コンテナ利用事業支援

- ・ 2016 年 7 月から JA 全農や大手フォワーダーが連携して行う、CA コンテナを利用したイチゴやブドウ等のアジア諸国への輸出事業についての事業費支援。
- ・ ジェトロと連携した食品輸出に関する相談窓口を全国に設置することにより、生産者や輸出事業者に対する現地市場に関する情報提供や販売ルート・手法の提案。

(2) 輸送資材の開発支援

- ・ 青果物が輸送中に梱包内でぶつかって傷むことを防ぐための青果物特性に合わせた緩衝材の開発や、特殊なフィルムを使用した品質保持技術の開発支援。

(3) 制度改定

- ・ 検疫や通関等の輸出手続き簡素化。

最後に

新興国では所得が向上することで食生活が多様化し、日本の高品質な農林水産物・食品への注目が高まっています。CA コンテナの利用拡大により、青果物の販売価格が層の厚い中間所得層向けまで引き下がることが期待され、食品輸出がわが国の農業の新たな販路として大きく成長する可能性があります。

そのためには、農産物輸出のさらなる促進に検疫制度の改定が必要という声も多く、今後 TPP を軸とした政府間交渉による制度改定に向けた取組が期待されています。

<参考文献一覧>

農林水産省HP <http://www.maff.go.jp/>

農林水産省 食料産業局 輸出促進グループ『農林水産物・食品輸出の物流に係る課題と現状の補足』